市立学校

望ましい教育環境づくりを目指して

教育委員会では、急激な少子化による学校の小規模化の進行と校舎などの耐震補強が急がれる現況を踏まえ、昨年11月6日、一関市立学校通学区域調整審議会から学校規模の適正化の基本的な考え方について答申を頂きました。これを受けて本年1月から2月、少子化の現状などについて地域やPTAの皆さんと共通理解を図り、今後の市立小中学校の望ましい教育環境づくりについて意見をいただくための懇談会を一関地域で3回、花泉・千厩・東山地域で各1回開催し、小中学校長、PTA役員、行政区長、自治会長など計130人と意見交換を行いました。

懇談会では、

▽複式学級など児童が少ない環境では子供たちがかわいそうに感じる。

▽学校の小規模化の現状は、これから学校に入る子供の父兄から意見を聞いた方が切実に感じると思う。

▽審議会の答申以上に少子化の進み方が早く、2、3年ごとに答申を見直す必要がある。

▽統合する場合、地域の学校をなくしたくないという気持ちもわかるが、子供たちのためになることを一番に考えたい。

▽学校統合は住民感情もあるので、住民の意見を何回も取り入れながら進めてほしい。

▽PTAが集まり地域の行事に協力し合うという関係もあるので、統合により地域を大きくされたくない。

などの意見が出され、少子化などに伴う教育環境確保のための学校統合の必要性などについては、おおむね理解をいただいたものととらえています。

20年度の市立小・中学校の児童生徒数と学級数の状況は、左の表のとおりとなっています。19年度と比較すると、小学生は189人、中学生は116人の減少で、より一層小規模化が進んでいます。

教育委員会では、PTAなどの参加をいただきながら、小中学校のより良い教育環境づくりを目指した取り組みを急がなければならない現況にあるととらえており、今年度も共通理解を図るための懇談会の開催、そしてPTAを中心に複式学級の解消と学校の適正規模化や一関地域の学校統合の順番付けなどについて議論をしていただく場を設けていきたいと考えています。

市立学校通学区域調整審議会答申

一関市教育委員会にありましては、当市における児童生徒数の減少状況、義務教育施設の現況を踏まえ、速やかに、より良い教育環境の確保に向け各地域単位を基本としながら学校規模の適正化を図られたい。なお、学校規模の適正化を進めるにあたっては以下の点に留意願いたい。

①学校の適正規模化にあたっては、一関地域、大東地域、室根地域で取り組んできた統合計画を進めるとともに、その他の地域についても複式学級の解消を基本として取り組まれたい。

②適正規模についてはお互いに競い合ったり、クラス替えが可能な1学年2学級以上が望ましいが、地域の地理的状況等を勘案しながら取り組まれたい。

③児童生徒の通学には十分配慮されたい。

④保護者・地域住民への啓発に努め理解と協力を得ながら合意形成を図り進められたい。

平成20年度児童生徒数、学級数

区分	地域	学校名	児童生徒数	学級数
小学校	一関	一関	682	23
		山目	613	22
		赤荻	338	14
		中里	186	7
		滝沢	159	9
		南	602	20
		弥栄	63	6
		萩荘	438	15
		達古袋	30	4
		厳美	133	7
		本寺	46	5
		舞川	129	8
	花泉	永井	153	7
		涌津	131	7
		油島	63	6
		花泉	185	9
		老松	43	4
		日形	45	5
		金沢	130	7
	大東	大原	197	7
		内野	24	3
		摺沢	167	7
		興田	176	7
		猿沢	82	6
		渋民	49	4
		曽慶	56	7
	千厩	千厩	408	15
		小梨	85	6
		清田	45	4
		奥玉	128	7
		磐清水	36	4
	東山	長坂	222	10
		田河津	63	5
		松川	123	7
	室根	折壁	108	7
		浜横沢	43	5
		上折壁	60	6
		釘子	39	4
		津谷川	29	3
	川崎	薄衣	147	8
		門崎	94	7
	計		6550	324
中学校	一関	一関	328	11
		山目	521	17
		中里	90	3
		一関東	121	6
		桜町	351	11
		萩荘	193	6
		厳美	86	4
		本寺	15	2
		舞川	69	4
	花泉		393	14
	大東	大原	123	7
		大東	156	7
		興田	109	4
		猿沢	68	4
	千厩		366	12
	東山		235	8
	室根		147	6
	川崎		141	6
	計		3512	132

◎問い合わせ先
教育委員会教育総務課
☎㉕6592

世界遺産を目指して

骨寺村荘園遺跡講座その8

国指定史跡「骨寺村荘園遺跡」～指定個所の特徴③～

梅木田遺跡⑦　発掘調査により、山の緩斜面を平らに造成した上で構築された、直径1㍍を超える柱穴と2・4㍍の柱間で構成される掘立柱建物跡が発見されています。平泉町で確認された12、13世紀の建物跡と特徴が共通することから、荘園経営時期にちなんだ建物の可能性があります。

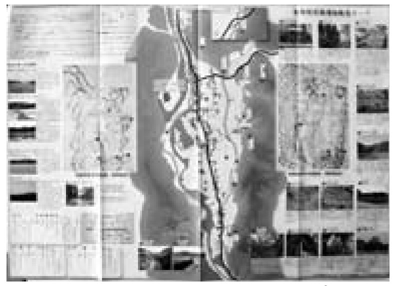
駒形根神社・白山社⑧　駒形根神社は絵図に描かれている「駒形」「駒形根」（現在の栗駒山）を祭っているところです。江戸時代には馬頭観音堂として記録されています。絵図の配置から「六所宮」と推定されますが、明らかではありません。白山社は山岳信仰に由来する神社で、天台修験とのかかわりが考えられます。さらにこの二つが立地する絵図の中の里山には、村名の由来になったと思われる「骨寺跡」「骨寺堂跡」が描かれています。柱穴もしくは礎石のような図柄も描かれており、絵図の描かれた時代には既に寺の跡であったことを示しています。

山王窟⑨　骨寺村の西の境にあたり、山王日吉神社を祭っています。磐井川に接した断崖絶壁の中腹にあり、山岳修験の象徴的な環境を今に伝えています。村の天台信仰の聖地であったため、絵図の正面に描かれました。

村の信仰の聖地となっていた山王窟

このように本寺地区には、二枚の絵図に描かれた村の信仰対象が現存し、当時の仏教色豊かな農村の姿をしのぶことができます。

◎問い合わせ先
本庁骨寺荘園室



中世の絵図と現在のイラストマップを対比させ、遺跡をわかりやすく説明しています

「散策マップ」ができました

市は、岩手大学と本寺地区地域づくり推進協議会の協力を得て、骨寺村荘園遺跡の見学に便利なハンディタイプの散策マップを作成しました。

所要時間60分2コースと90分1コースの三つのコースを設定し、それぞれのルートと見どころ、骨寺村の歴史や史跡の説明などをわかりやすくまとめています。

本庁骨寺荘園室または骨寺村荘園遺跡臨時案内所で、無料で配布しています。

「もちの里」いちのせき

おもちものがたり

昔から慶弔のもてなしや年中行事のごちそうなど、あらゆる場面でもちを食べる風習が根付く一関地方。

今、そのもち食文化を生かしたまちづくり「一関・平泉もち街道」への取り組みが始まっています。多くの飲食店や宿泊施設などでもちを提供し、「もちの里」として当地方をPRするとともに、地域の産業の振興に役立てていこうとするものです。

一関地方のもち文化の歴史とその伝承・新たな取り組みなどについて、今回から5回シリーズで掲載します。

①一関地方の正式なもてなし料理「もち本膳」

この地方のハレの食として、最高のもてなし料理とされてきた「もち本膳」があります。冠婚葬祭などの行事の種類によって、その食の内容は若干異なりますが、お膳はもちだけで整えられ、その出し方や食べ方にもルーツがあるなどこの地方独特のものです。

もち本膳では、「取持ち（おとりもち）さん」と言われる接待役の口上があり、食べ方もその人の指示に従って進められます。お祝いの席では、招く側と招かれた側がそれぞれ謡を上げ、時と場合による仕切りがあるなど、武家の伝統を受け継いだ食儀礼と言えます。

▲元旦のもち膳

◀もち振る舞い行事の再現の様子